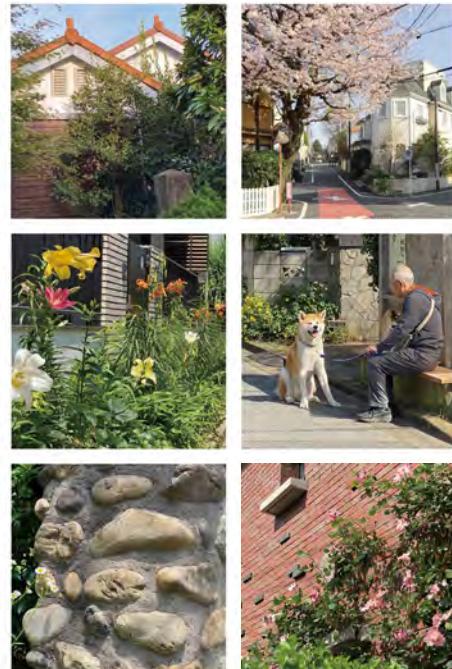




Okusawa Garden Town



みどりの街づくりガイド 2021



みどりの街づくりガイドについて

土とみどりを守る会がこれまで取り上げてきた「景観木」や「街並み選奨」は、その対象が、敷地に余裕のあるお宅がほとんどでした。それに対し、このガイドで紹介する「開かれた庭」は、小さなスペースでも取り組めます。

このガイドが、みどりの街づくりにより多くの方が取り組んでいただききっかけになれば幸いです。

奥沢・土とみどりの街づくり宣言

宣言の目標：

「緑豊かな街並みを維持し、心安らぐ街にしていくための住環境づくり」

宣言によって生ずる活動の内容：

1. 街並みの調和を大切にし、街の歴史を刻む建物など、語り継がれていく風景を皆で守る。そのためには、住まいと街をつなぐものとしての建物の外壁、塀や柵、擁壁などのしつらえの方法や素材選びなどのアイデアを共有してゆく活動を進める。

2. 街並みに寄与している樹木を推奨し、周囲の住民の理解を得て、その保全に努め、新改築時に既存の樹木や生け垣を残す他、壁面緑化などの工夫を通じて、生活空間を豊かにしてゆくための活動を進める。

3. 季節の花がある楽しい街並みづくりや、文化活動を通じてご近所づき合いを活性化し、地域のコミュニケーションを深める活動を進める。

平成 16 年 3 月
(世田谷区 風景づくり条例に基づく かいわい宣言)

このガイドは、多くの方と歩いて取材し、オーナーのご協力も得て生み出されました。きっかけは景観木の現況調査で、幸い、主な景観木は維持されていました。その時に気がついたのが、比較的新しいお宅の、手入れの行き届いた緑の増加です。そして秋のつどいで、名称候補の中から「開かれた庭」が選ばれました。

土とみどりを守る会は、1998 年以来、市民活動を支援する様々な制度を活用し、町会とも連携して活動をすすめてきました。地域の緑について、多くの方に“自分ごと”としての共感をもっていたることを目標としています。



土とみどりを守る会（シェア奥沢内）

158-0083 東京都世田谷区奥沢 2-32-11
電話：03-6421-2118 fax：03-5701-5903

homepage

<https://okusawa.garden>

Email

midori@okusawa.garden



企画・取材：特定非営利活動法人 土とみどりを守る会

制作：多摩美術大学 堀内チーム

助成：令和 2 年度 世田谷区 地域の絆連携活性化事業

協力：奥沢交和会

2021.3.20



ガーデンシティ から ガーデンタウンへ

Okusawa Garden Town

奥沢では、宅地のみどりによって、良好な環境が生み出されています。そこで、「奥沢ガーデンシティ構想」という、公園が少なくとも、宅地のみどりでまち全体を公園にしよう、というアイデアが生まれました。

そして、奥沢のスケールはタウンでしょう、という提案があり、「奥沢ガーデンタウン」に名称を変更しました。

ハワードによる最初のガーデンシティ、英国のレッチワースでは、1905年に作られた、広大な緑地や公園を共有する仕組みが今でも継承されており、建物は統一され、その整った街並みは理想の都市計画として有名です。

これに比べると奥沢の街並みはまちまちですが、通りから見えるみどりにお住まいの方の個性が感じられ、散歩しながらながめる風景には何かほっとするものがあります。

古い家のみならず、新しい家にもその伝統が

受け継がれており、これは奥沢の文化です。

奥沢に転居された方がこのような奥沢の魅力に気がつかれ、「道路際に塀を立ててしまったが、このような奥沢を知っていたらそうしなかったんだろう」とおっしゃったそうです。

このガイドでは、奥沢らしさを感じる街並みの例を写真で紹介しています。これらを参考にしていただくことで、奥沢らしい風景が新しくお住まいになる方にも引き継がれていくことを願っています。



風景祭では一般のお宅のお庭が公開され、太極拳の教室やお絵かきの体験イベントが開かれました。



Okusawa Garden Town

ゆったりとした時間 を過ごせる街に

世田谷区都市デザイン課、奥沢交和会、土とみどりを守る会の共催で2019年秋に奥沢2丁目で開かれた「風景祭」というイベントは、公園で開催する代わりに、一般のお宅を開放してつなぐことで展開し、いわば奥沢ガーデンタウンの試行になりました。

その後、コロナ渦となりましたが、ご近所のいろいろな世代の方が街角でくつろぐ風景が見られるようになりました。

昭和8年に建てられたシェア奥沢のこの部屋は、空き家活用助成金で再生され、奥沢海軍村当時の風情を今に伝えています。住民主体デイサービス（世田谷区総合事業）や音楽会などが開かれ、空いている時間帯はコワーキングスペースとして使われています。



風景祭でシェア奥沢の庭は一日カフェとなり、ご近所の方がくつろがっていました。このような、少し前の奥沢ではあたりまえだった小さな庭。建てかえで失われてしまうことが多いですが、何とかこの風景を次の世代に伝えたいと考えています。



奥沢には、読書空間みかもとシェア奥沢という、地域に開かれたふたつの「地域共生のいえ」があります。地域にこのような空間が増えることで、ガーデンタウンがさらにステップアップすることだと思います。

一般的に、地域のにぎわいというとお店を中心となりますが、このようにゆったりとした時間を過ごせる空間がご近所にあることで、地域のつながりも拡がると思います。



シェア奥沢の道路際に街角ベンチを設置したところ、大変に好評で、お散歩途中の休憩などに使われています。

向かいのマンションの公開空地にお住まいの方がシェアを持ち出し、家族でくつろがっている、のどかな風景です。



シェア奥沢（地域共生のいえ）



奥沢の 古い家 に学ぶ

奥沢2丁目には「奥沢海軍村ゆかりの風景」として世田谷地域風景資産に登録された、昭和初期の住宅が残っています。

それらに共通するのは、住宅のスケールになじんで一体感の感じられる緑の配置、自然を感じさせる素材と色彩、そして通りからの見え方を意識した風景づくりです。

このようなエッセンスを新しい建築にも活かしていきたいものです。



奥沢地区では、宅地内の緑によって落ち着いた住環境が保たれています。しかしながら残念なことに、時代の移り変わりとともに、緑が失われつつあります。

土とみどりを守る会では「景観木」や「街並み選奨」を選定し、平成16年には「奥沢・土とみどりの街づくり宣言」を締結しました。これらの取り組みの趣旨は今でも変わっていませんが、その対象とする範囲が限られていたので、より

広い範囲にお住まいの方とアイデアを共有するためにこのガイドを作りました。これから奥沢に住まわれる方にもメッセージをお伝えできればと思います。

奥沢の古い家には、今でも通用する、緑豊かな街並みをつくるための基本があります。このガイドでは、そのエッセンスを込めた「開かれた庭」というキーワードを使って、緑豊かな街並みを次の世代に継承していくことを提案します。



いわゆる「旗竿敷地」の通路部分ですが、通りからの見え方を意識した作りになっています。

よく手入れのされた庭木に、住まい手の気配りが感じられます。

景観木

とは

景観木とは、街の目印となっていて、良好な風景と環境の創造に貢献している木です。会では、敷地の道路際にある景観木の保全を推奨しています。



建物を建て替えるとき、土地を更地にしてしまいますが、道路際にある木は建築のさまたげになりにくいので、建て替え時に継承しやすいです。

会では、景観木の価値を土地のオーナーに伝え、ご理解いただくことで、継承していくことを目指しています。

花が咲く木、紅葉する木は、季節感のある風景をつくります。大きな木のみならず、小さな木でも地域のシンボルになります。

会では、このような木を地域の共有財産として、皆でサポートするためのコミュニケーションをすすめます。

まちの落ち葉掃きプロジェクト

高木の落ち葉は、広く散らかります。そのために肩身の狭い思いをするオーナーもいます。そこで会では、町会、まちづくりセンター、小学校と連携し、まちの落ち葉掃き活動をしています。世田谷区地域の絆再生支援事業として始まり、継続して実施しています。



落ち葉掃除機

新型コロナの影響で、イベントとしての落ち葉掃きができなくなりました。そこで、個人で楽に落ち葉掃きができる「落ち葉掃除機」を開発中です。

これは試作1号機ですが、改良を重ね、皆さんに使っていただけるようにしたいと考えています。

開かれた庭

とは



立体的な緑のゲート

ここで言う「開かれた庭」とは、通りから見える緑を増やすような、様々な工夫のことです。必ずしも高木にこだわる必要はありません。

奥沢地区は公園が少ないのに「緑が豊かだ」と言われます。それは古い家のみならず、新しい家、そして集合住宅の多くが、通りから見える緑を配しているからです。

このガイドで紹介している実例は、全て奥沢地区にあるものです。家を建てる時、あるいは改装する時に、このような工夫をすることで、緑豊かな街並みを次の世代に伝えていきたいものです。



植樹で分節された堀



道路に沿った植樹帯



「和」を感じる玄関前の緑



Okusawa Garden Town

様々なみどり を楽しむ



集合住宅の大木、新しいモダンなお宅、丹精込めた寄せ植え、お店の前のビオトープなど、奥沢のみどりには実に多様性があり、散歩していく飽きることはありません。

お手入れをしている方に話しかけると、いろいろ説明してくれる方もいます。





クレパスキュール

季節感 のある街に

敷地に余裕が無いと高木での緑化はできないので、つる性植物で拡がる緑化、道路脇のちょっとした隙間の土を活かした植栽など、あまり広い土地がなくてもできる緑化を推奨します。

花や実のなる植物は、季節の変化を感じられる風景を生みだします。



玄関前のちょっとした空間が、和風、洋風、自然風など、住まい手の個性が感じられる景観を生み出しています。

いわゆる旗竿状敷地の通路部分など、ちょっとした植栽やワンポイントとなる花を取り入れることで、風情のある路地空間を生み出すことができます。



道ばたの自然風植栽



路地に咲くオニユリ



チエリーセージ

土とみどりを守る会では、奥沢2丁目を中心に、チエリーセージを地域の花として配布しています。その小さな花は緑多い街並みのアクセントとして映えます。

カーポート の緑化

透水性ブロックによる
舗装面の緑化、植栽の計
画、屋上の緑化がトータ
ルに計画されています。



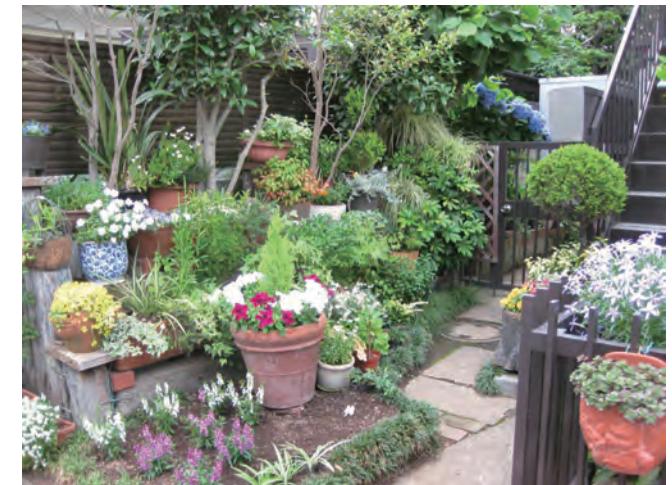
木のブロックを埋め込み
緑化されたカーポート
と、ハンギングバスケット
を掛けた木製の仕切り
で、さりげなく玄関まわ
りが演出されています。



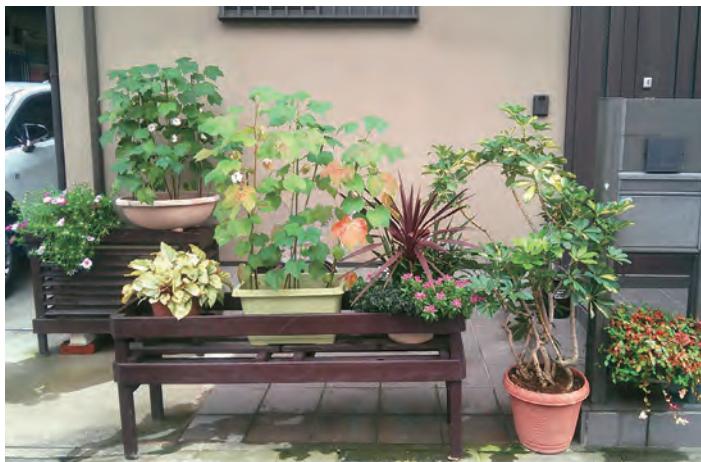
道と遮るものが無い、
欧米の住宅のようなス
タイルです。車の下となる
芝生には枕木が埋め込
まれています。

プランター で緑化

玄関前のちょっとした
スペースを活かし、地植
えと植木鉢を組み合わせ
た小さなお庭です。



透水性のある素材で緑
化されることで、殺風景
になりがちなカーポート
が美化される他、グリー
ンインフラとして、洪水
対策にも寄与します。



縁台のようなしつらえ
に置かれた、丁寧に手入
れされたプランターには
「和」のたたずまいが感じ
られます。

建築の色彩

建築の外壁の色彩は、風景づくりで重要な役割を担っています。

土とみどりを守る会では、奥沢1～3丁目を中心建物外壁の色彩調査を行いました。その結果をまとめたところ、奥沢2丁目の海軍村周辺では、特に暖色系が多く使われていることがわかりました。



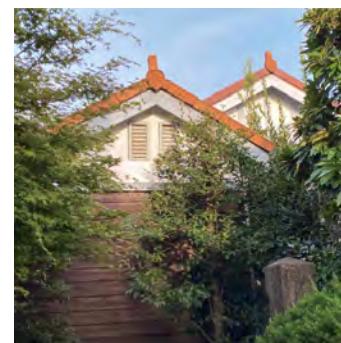
色票を使った調査の様子

海軍村住宅の色彩調査例

このように彩度の高い色はアクセントカラー → 12-50L
として、少ない面積に用いるのが効果的です。

光の状態によって色票よりも写真の方が明るく見えます。
明度の低い色は、みどりとよくなじみます。

→ 09-40H



レンガや木、石材などの自然素材のほか、塗り壁も素材感のある暖色系のものが多く見受けられます。それに対して新しい家には建物全体が白、あるいは黒やグレーといった無彩色のものが増えています。

環境色彩の専門家、吉田慎悟先生からいただいたアドバイスでは、最近増えた工業製品の外壁は経年変化が少ないので、色の純度の高い「清色」でなく、少し「濁色」が入ると景観になじむそうです。会のホームページで推奨色（日塗工）を紹介していますので、ぜひ参考にされてください。

